

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	○神戸大学、大阪大学
整理番号	I-5
事 業 名	ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p> 本事業は、7大学・2機関がコンソーシアムを形成し、世界水準の専門能力、問題解決能力や英語によるコミュニケーション能力を有する次世代医学・保健学グローバルリーダーを育成することを目的に開始され、その後コンソーシアム以外に11大学を追加して拡大しながら実施された事業である。 </p> <p> 事業展開では、短期派遣のセミナープログラムや学部生・大学院生が対象の病院実習、受入学生が対象の学位取得を目的とする長期交流など、多層的なプログラム構成により学生の実践的能力を涵養するための実質的な取組が行われ、学生交流も概ね順調に実績を挙げている。少数ではあるものの、学位取得プログラムによる博士号取得者も輩出している。急速な都市化等が進むASEAN諸国と我が国が医療分野において相互にグローバルリーダーを育成する点が本事業の大きな意義であり、これまで学生交流が困難とされてきた医学部において病院実習を含む実質的な国際交流が実施された点は評価できる。 </p> <p> また、大学間交流の枠組みの拡大にも取り組み、ASEAN諸国をはじめ周辺国の11大学と事業を展開することで派遣・受入ともに交流規模を広げ、大学の世界展開力強化に繋げている点は評価できるとともに、事業の継続にも期待が持てる。 </p> <p> 一方で、国内2大学の連携による役割分担や相乗効果に偏りが見られることから、事業を継続・展開していく上で、十分な検討と安定的な予算の確保が望まれる。 </p> <p> 最後に、これまでの取組を踏まえてASEAN諸国をはじめ周辺国と医学・保健学分野での連携体制が構築されたことは意義深く、補助期間終了後も事業を継続していくことで育成した次世代人材による更なる連携強化と、我が国の教育の質を確保したグローバル展開力の強化への貢献を期待する。 </p>